

科目区分	専門科目 専門基礎科目 環境と健康			聴講	否
授業科目名	群馬県民の生活と健康		科目履修	可	単位互換
科目番号	N01001	クラス番号	C1(学部合同)		
授業形式	講義	必修選択区分	必修		
開講時期	1年次 後期 Semester	単 位	2単位 30時間		
科目責任者	飯田苗恵	そ の 他	R01001 と同科目		
担当教員	飯田苗恵、齋藤基、大澤真奈美、鈴木美雪、塩ノ谷朱美、坪井りえ、佐々木馨子				
授業の概要	この授業は、群馬県の人々が産み出し継承してきた文化と生活の特徴に関する学習を前提としている。群馬県民の健康状態の時代的変遷とその影響要因を学習し、人間一般の健康状態に影響する生活・環境の諸要因を理解する。また、公衆衛生学的な観点から群馬県民の生活と健康を査定し、個人・集団の健康状態の把握・保持・増進に向けて必要な知識・技術を学習する。さらに、これらの過程を通して、独自の文化の中で生活する人間の多様性を尊重しつつその健康状態を維持・向上する意義を理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：群馬県民の健康を社会・生活環境の諸要因との関連から理解する。群馬県民が生涯にわたり健康で生き生きとした生活を送ることが出来るよう、環境を整え、疾病を予防し、健康の保持増進を図るための基礎知識を学ぶ。</p> <p>目標 1. 群馬県民の健康を、個人を取り巻く社会・生活環境の諸要因と関連させて理解する。 2. 群馬県民の健康を統計調査、健康指標から理解する。 3. 個人のライフスタイルに関連した要因を集団の視点で捉え、社会的要因として理解する。 4. ライフステージごとの所属集団の生活環境で生じやすい健康問題と対策について理解する。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習(学習課題)	担当
	1	公衆衛生の意義とヘルスプロモーション	講義	授業時に課題を提示	飯田
	2	地域の人々の健康と生活を査定する方法			大澤
	3	ライフスタイルと健康、元気県ぐんま 21			飯田
	4	群馬県民の健康状態の把握(1) (健康指標・人口と世帯)			齋藤
	5	群馬県民の健康状態の把握(2) (人口動態統計・生命表)			
	6	ライフスタイルと非感染性疾病(1) (群馬県民のがん予防と対策)			飯田
	7	ライフスタイルと非感染性疾病(2) (群馬県民の循環器疾患予防と対策)			佐々木
	8	ライフスタイルと非感染性疾病(3) (群馬県民の糖尿病予防と対策)			飯田
	9	感染症予防と対策			
	10	社会生活を営むために必要な健康(1) (群馬県民のこころの健康)			坪井
	11	社会生活を営むために必要な健康(2) (群馬県民の次世代の健康)			飯田
	12	社会生活を営むために必要な健康(3) (群馬県民の高齢者の健康)			塩ノ谷
	13	生活及び社会環境の改善 (群馬県民の歯・口腔の健康)			鈴木
	14	生活集団と健康(学習・労働環境と健康)			飯田
15	地域の人々の健康を支える社会環境の整備				
評価方法	筆記試験 80%, 課題レポート 15%, 出席状況 5%				
教科書	なし				
参考書 参考文献等	厚生統計協会編：国民衛生の動向 2016/2017, 厚生労働統計協会 鈴木庄亮監修：シンプル衛生公衆衛生学 2016, 南江堂, 2016				
備考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門基礎科目 環境と健康			聴講	可
授業科目名	「環境と健康」概論		科目履修	可	単位互換
科目番号	N01002	クラス番号	N1		
授業形式	講義	必修選択区分	必修		
開講時期	1年次 前期 Semester	単 位	2 単位	30 時間	
科目責任者	石川良樹	そ の 他			
担当教員	石川良樹、山下暢子、巴山玉蓮、松田安弘				
授業の概要	健康とは、人間が日常生活において自らの能力を最大限に発揮している動的状態を指す。また、健康の状態は、人間が受胎し、死に至るまで様々に変動し、疾病と対極にあるものではない。さらに人間を取り巻く環境には、社会・文化・自然的環境である外的環境、生体の内部環境を意味する内的環境がある。この授業においては、環境・健康の概念、人間の身体的、心理的、社会的側面の環境の特徴、並びに環境と健康との関係を学ぶ。また、この学習を通して日常生活の中でよりよい健康状態を実現するための環境の重要性を学ぶ。				
学科目的 学科目標	目的：日常生活の中でよりよい健康状態を実現するために、環境の重要性を認識する。 目標：1 「健康」と「環境」の概念を理解する。 2 外的環境が健康に及ぼす影響を理解する。 3 内的環境が健康に及ぼす影響を理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業 形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	「環境と健康」科目のカリキュラム上の位置づけ ・「環境と健康」科目の目標 ・「健康」「環境」の本学における用語の定義 ・「内的環境」と「外的環境」	講義	必要に応じて 授業で提示す る。	石川 山下
	2	健康概念の動向 ・健康観の変遷 ・世界保健機関（WHO）による健康の定義と活動			山下
	3	外的環境と健康 ・地球環境と人類の歴史			石川
	4	・環境と感染症の歴史の変遷			巴山
	5	・科学技術の発達と生命活動			
	6	・社会的環境と健康			
	7	・社会経済状況と健康			松田
	8	内的環境と健康 ・外界から情報を取り入れ、運動をおこす(感覚器系・ 運動器系・神経系) ①			
	9	・外界から情報を取り入れ、運動をおこす②			
	10	・外界から情報を取り入れ、運動をおこす③			
	11	・栄養素を取り込み、老廃物を排泄する(消化器系・ 泌尿器系) ①			
	12	・栄養素を取り込み、老廃物を排泄する②			
	13	・栄養素を取り込み、老廃物を排泄する③			
	14	・ガス交換をおこない、全身に酸素を供給する①(呼 吸器系・循環器系)			
15	・ガス交換をおこない、全身に酸素を供給する②				
評価方法	レポート(1から7回)、試験(8から15回)の担当コマ数による加重平均				
教科書	指定なし				
参考書 参考文献等	「看護における健康の概念」都留春雄他訳 医学書院 環境学入門 第8巻「環境と健康」 森田昌敏、高野裕久著 岩波書店				
備考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門基礎科目 環境と健康			聴講	否				
授業科目名	「環境と健康」各論Ⅰ（内部環境を支える人体の構造と機能）		科目履修	否	単位互換				
科目番号	N01003	クラス番号	N1						
授業形式	実習	必修選択区分	必修						
開講時期	1年次 通年	単 位	1単位 45時間						
科目責任者	青木武生	そ の 他	診療放射線学部とは別内容						
担当教員	青木武生								
授業の概要	人体を構成する様々な器官系の構造をそれぞれの機能も含めて、系統的に学習する。また、この学習を通して獲得した人体の正常な構造と機能に関する基礎的知識を統合し、人間の内部環境を総合的に理解する。さらに、各器官がそれぞれに関連しつつ機能し、人間の内部環境が維持されており、これらが発達に伴って変化する実際に関して学習する。（実験を含む）								
学 科 目 的 学 科 目 標	目的：人体の基本構造と機能を理解するために必要な知識と思考力をうること。 目標：正常なヒトの基本構造と働きを系統立って学習し、理解すること。								
授業の内容と方法	回	授業内容	授 業 形 態	事前・事後学習 (学習課題)	担当				
	1	解剖生理を学ぶための基礎知識（細胞と組織）	実 験 ・ 講 義	毎回、教科書の 該当項目を事 前学習しておく こと	青木				
	2,3	栄養の消化と吸収（消化器系の構造と機能）							
	4,5,6	呼吸と血液のはたらき（構造と機能）							
	7	血液の循環							
	8	血液循環の調節機構							
	9	胎児循環							
	10	体液の調節と尿の生成（腎臓と排尿路）							
	11	内蔵機能の調節（自律神経と内分泌）							
		中間試験							
	12	からだの支持と運動1（骨の構造と機能、連結）							
	13	からだの支持と運動2（筋の構造と収縮機能）							
	14	からだの支持と運動3（上肢、下肢、頭頸部）							
	15,16	情報の受容と処理1（神経系の構造と機能）							
	17,18	情報の受容と処理2（感覚器系の構造と機能）							
	19,20	外部環境からの防御（皮膚の構造と生態防御）							
	21	生殖・老化のしくみ							
	22	顕微鏡標本の観察とスケッチ 前半グループ							
	22	顕微鏡標本の観察とスケッチ 後半グループ							
	23	ヒト解剖体の観察実習				観 察 実 習	2月のオリエンテ ーション時の配 布資料にて事前 学習をしておく こと		
	評 価 方 法	出席状況（10%）と中間試験および最終試験結果（90%）によって評価します。最終試験は試験期間中で行います。評価が60%に満たない場合には再試験を行います。							
	教 科 書	医学書院 系統看護学講座 解剖生理学（人体の構造と機能）坂井建雄、岡田隆夫著 医学書院 坂井建雄監訳 プロメテウス解剖学アトラス コンパクト版							
	参 考 書 参 考 文 献 等	ムーア著、瀬口春道監訳「ムーア 人体発生学」原著第8版（医歯薬出版）							
備 考	授業時間は45時間（23回）です。講義は前期、ヒト解剖体の観察実習は後期2月に行います。解剖体の観察実習のオリエンテーション、実習日の詳細な日程は後日連絡します。								

科目区分	専門教育科目 専門基礎科目 環境と健康			聴講	否			
授業科目名	「環境と健康」各論Ⅱ (代謝と栄養)		科目履修	否	単位互換			
科目番号	N01004	クラス番号	N1・N2 (看護学部)					
授業形式	実習	必修選択区分	必修					
開講時期	1年次 前期 Semester	単 位	1単位 45時間					
科目責任者	石川良樹	そ の 他	R01007と同科目					
担当教員	石川良樹							
授業の概要	人間の内的環境を維持するために必要な栄養素の化学的構造と機能及びその代謝の仕組みを学習する。また、これらの学習を前提として人間が食物を摂取、消化、吸収、代謝する過程を通して、エネルギーを獲得し、これを同化して成長していく状況を理解する。さらに、この過程が阻害された結果生じる栄養素の過不足が引き起こす病態生理、バランスのよい栄養摂取による健康状態の回復、健康増進の仕組みについて学習する。加えて、現代に生活する人々の栄養に関する現状と課題を学習し、人間が健康な生活を営むための代謝と栄養の意義を理解する。(実験を含む)							
学 科 目 的 学 科 目 標	目的：生物が外界から得る物質・エネルギーを体内でどのように変換し、個体を維持しているかを、分子の目線に立って学習する。そのシステムが異常をきたした時どのような病態を生じるか、回復させるにはどうすれば良いか、を学習する。 目標：(1)生体を構成する基本分子の構造と機能を理解する。 (2)個としてのまとまり(恒常性の維持)に、基本分子がどのように関わっているか理解する。 (3)病態と代謝異常との関連を理解する。							
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当			
	1	(1)生化学って何だろう？分子→細胞→臓器→個体 (2)生体を構成する物質(I)糖質、脂質	講義	事前：教科書の関連各章を読んでくること。 事後：授業で使ったプリント、メモを元に、ノートの作成を行うこと。	石川			
	2	(3)生体を構成する物質(II)蛋白質 (4)生体を構成する物質(III)核酸、無機質	講義					
	3	(5)個を維持するために(I)エネルギーの獲得と利用 (6)個を維持するために(II)遺伝情報の発現と調節	講義					
	4 5	糖質の定量法	実験					
	6 7	タンパク質の定量法	実験					
	8 9	SDS 電気泳動の理論と実際	実験					
	10	(7)個を維持するために(III)酵素と補酵素 (8)個を維持するために(IV)血液と尿	講義					
	11	(9)個を維持するために(V)ホルモン、生理活性物質 (10)個を維持するために(VI)免疫	講義					
	12	(11)糖代謝と糖尿病 (12)脂質代謝とメタボリックシンドローム	講義					
	13	(13)蛋白質代謝、核酸代謝と痛風 (14)血液代謝、骨代謝と骨粗鬆症	講義					
	14	(15)ガンの生化学	講義					
	15	まとめ	実験 講義					
	評価方法	期末試験の成績(100%)。ただし、試験で合格点(60点)に達しなかった場合、可否はレポート、出席状況を加味して判断する。						
	教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[2] 生化学 第13版(2014) 著者：三輪一智、中 恵一 医学書院						
参考文献等	特に定めない。							
備考	実験は2クラスに分け、隔週で実施。							

科目区分	専門教育科目 専門基礎科目 環境と健康			聴講	否
授業科目名	「環境と健康」各論Ⅲ (薬理作用)		科目履修	否	単位互換
科目番号	N01005	クラス番号	C1 (学部合同)		
授業形式	実習	必修選択区分	必修		
開講時期	1年次 後期semester	単 位	1単位 45時間		
科目責任者	石川良樹	そ の 他	R01008と同科目		
担当教員	石川良樹、猿木信裕				
授業の概要	薬物とは、疾病や創傷を治癒・予防するために服用または塗布・注射する化学物質である。この授業においては、薬物の性質に関する基礎的知識を学習し、これを前提として、生体の生理機能に及ぼす薬物の作用機序について理解する。また、この過程を通して、薬物が人体に及ぼす利益と危険性を学習し、薬物を扱うための基礎的知識・技術・態度を理解する。(簡単な実験を含む)				
学 科 目 的 学 科 目 標	目的：人体の生理活動をふまえて、薬物の作用機序と影響を理解する。 目標：1 薬と毒、化学物質の安全性と危険性を正しく理解する。 2 薬物の体内への吸収、体内での循環、体外への排泄を正しく理解する。 3 薬物の作用機序のベースとなる生理機能を正しく理解する。 4 薬物の作用機序を正しく理解する。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	薬理学総論(I)薬理学とは	講義	事前：教科書の関連各章を読んでくること。 事後：授業で使用したプリント、メモを元に、ノートの作成を行うこと。	石川 猿木 石川
	2	薬理学総論(II)薬物動態			
	3	自律神経作用薬(I)副交感神経に作用する薬物			
	4	自律神経作用薬(II)交感神経に作用する薬物			
	5	中枢神経系作用薬(I)生理、全身麻酔薬			
	6	中枢神経系作用薬(II)睡眠薬、抗不安薬、抗精神薬			
	7	循環器作用薬			
	8	利尿薬、血液作用薬			
	9	内分泌作用薬			
	10	平滑筋作用薬(I)呼吸器、生殖器に作用する薬物			
	11	平滑筋作用薬(II)消化器、他に作用する薬物			
	12	化学療法薬(I)抗生剤、抗ウイルス薬			
	13	化学療法薬(II)抗ガン薬			
	14	外用薬、消毒薬			
	15	まとめ			
	1	(1)イントロダクション (2)実験に使う試薬、薬物の調整	実験		
	2	(3)筋収縮タンパクの調整 (4)筋収縮の測定、作用する薬物			
	3	(5)平滑筋の調節 (6)平滑筋に作用する薬物(I)用量曲線、阻害薬			
4	(7)平滑筋の調整 (8)平滑筋に作用する薬物(II)カルシウム動員				
評価方法	期末試験の成績(100%)。ただし、試験で合格点(60点)に達しなかった場合、可否はレポート、出席状況を加味して判断する。				
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [3] 薬理学 第13版 (2014) 著者：吉岡充弘、泉 剛、井関健 医学書院				
参考書 参考文献等	特に定めない				
備考	実験は3グループに分けて実施する。				

科目区分	専門教育科目 専門基礎科目 環境と健康			聴講	否
授業科目名	「環境と健康」各論Ⅳ (病原体と免疫)		科目履修	否	単位互換
科目番号	N01006	クラス番号	C1・C2 (学部合同)		
授業形式	講義と実験	必修選択区分	必修		
開講時期	1年次 後期セメスター	単 位	1単位	45時間	
科目責任者	青木武生	そ の 他	R01009と同科目		
担当教員	青木武生、四方田幸恵、久枝 一				
講義の概要	病原体とは、生体に侵入して疾病の原因となる生物である。しかし、病原体が生体に侵入したとしても、感染症状が生じるか否かは、人間の免疫機構と密接に関連している。この授業においては、病原体・病原微生物とは何か、感染症が成立する過程とこれを防御する生体のメカニズムについて学習する。また、感染症患者に関わり、自らの感染症に対する予防的行動を実践するための基礎的知識・技術・態度を理解する。(実験を含む)				
学 科 目 的 学 科 目 標	目的：感染症について病原体側と生体側の両面から学び、罹患者のケア、及び自らの感染症に対する予防的行動実施のための基礎的知識・技術・態度を理解する。 目標：(1)病原体が生体に侵入した場合におこる人体の免疫機構について、理解する。 (2)病原体として微生物(細菌、ウイルス、真菌)および寄生虫にはどのような種類のものがあるのか、それによって生じる症状について理解する。 (3)病原体のどのような機序が感染症を起こすのかを理解し、その予防的行動および感染経路遮断のための基礎知識・態度について習得する。				
授業の内容と 方法	回	授業内容	授業 形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1、2	細菌感染に対する防御ストーリー	講義	事前学習：教科書に目を通しておくこと。 事後学習：毎回授業内容のまとめをすることで復習すること。	青木
	3、4	細菌感染における抗体産生のストーリー			青木
	5、6	ウイルスに対する防御反応のストーリー			青木
	7、8	免疫に関わる物質と細胞、リンパ球の世界			青木
	9、10	免疫と病気のメカニズム、まとめ			青木
		中間試験			青木
	11、12	細菌学総論 / 細菌学各論1	実験		四方田
	13、14	細菌学各論2 / 細菌学各論3			四方田
	15、16	細菌学各論4 / 細菌学各論5			四方田
	17、18	ウイルス学総論 / ウイルス学各論1			四方田
	19、20	ウイルス学各論2 / ウイルス学各論3			四方田
	21、22	真菌学 / 寄生虫学			四方田/久枝
	23	細菌学実験 N1			四方田
23	細菌学実験 N2	四方田			
23	細菌学実験 R	四方田			
評価方法	免疫学試験 45点 微生物学試験(期末試験期間中に実施) 55点(寄生虫分野10点を含む)				
教科書	休み時間の免疫学 第2版 齋藤紀先著 講談社 わかる!身につく! 病原体・感染・免疫 第2版 藤本秀士(編著)、目野郁子(著)、小島夫美子(著) 南山堂				
参考書 参考文献等	病態のしくみがわかる免疫学 関 修司、安保 徹 編集 医学書院 病気が見える Vol.6 免疫・膠原病・感染症 医療情報科学研究所(編集) メディックメディア 免疫学への招待 多田富雄監訳 南江堂、国民衛生の動向 2015/2016 厚生労働統計協会 新しい免疫入門(自然免疫から自然炎症まで) 審良静男、黒崎知博著 ブルーバックス 講談社				
備考	随時資料や課題をManabaにUPしますので、その資料を参考に勉強しておいてください。				

科目区分	専門教育科目 専門基礎科目 環境と健康			聴講	可	
授業科目名	人間と放射線		科目履修	可	単位互換	否
科目番号	N01007	クラス番号	C1 (学部合同)			
授業形式	講義	必修選択区分	選択			
開講時期	2年次(3年次)前期 Semester	単 位	2単位 30時間			
科目責任者	小倉明夫	そ の 他	R03005と同科目			
担当教員	小倉明夫、五十嵐博					
授業の概要	医療において用いられる放射線には、エックス線やガンマ線などがあり、我々人間は、これらを画像診断やガン治療などに活用し、様々な利益を享受している。しかし、放射線は、人体に身体的・遺伝的影響をもたらすため、医療職者には放射線の正しい知識と管理技術が必要となる。特に放射線画像検査や放射線治療を受ける人間には、苦痛や不安が生じやすいため、放射線の安全性と影響の正確な理解に向けた相互行為を展開することが重要である。この授業においては、医療に用いられる放射線の種類と人間に与える影響を学習し、適正な放射線管理や防護方法について具体例を通して理解する。					
学科目的 学科目標	<p>学科目的：放射線の基礎知識および放射線診療の概要を学習し、放射線診療における看護職の役割を理解する。</p> <p>学科目標：1. 放射線の物理・化学・生物的特性を理解する。 2. 放射線診療に伴う被曝の概要、人体への影響を理解する。 3. 放射線診療の概要および検査・治療の有用性と安全性について理解する。 4. 1～3をとおしてセカンドオピニオンとしての役割を見出す。</p>					
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習(学習課題)	担当	
	1	放射線の基礎	講義	毎回、指定参考書の事前・事後学習	小倉	
	2	放射線の性質と人体への影響				
	3	急性放射線障害と晩発障害、放射線影響の分類				
	4	放射線の測定と評価				
	5	放射線防護の原則と実際				
	6	放射線検査の実際1				
	7	放射線検査の実際2				
	8	放射線検査の実際3				
	9	MRI検査の基礎と安全性				
	10	MRI検査の体験から学ぶ患者心理1				
	11	MRI検査の体験から学ぶ患者心理2				
	12	放射線治療患者の看護				五十嵐
	13	核医学での看護				
	14	画像診療を受ける患者のメンタルケア				
15	最終まとめ	小倉				
評価方法	最終テストによる評価(60%)、各講義での小テスト(10%)、出席状況(30%) ※15回の講義等の後に実施する試験日時は別途指定する。					
教科書	放射線の特徴と画像原理 医療科学社					
参考書 参考文献等	超実践マニュアル救急撮影 医療科学社					
備考	特になし					

科目区分	専門教育科目 専門基礎科目 環境と健康			聴講	可
授業科目名	医療画像情報解析学		科目履修	可	単位互換
科目番号	N01008	クラス番号	N1・N2(看護学部)		
授業形式	講義	必修選択区分	選択		
開講時期	2年次・(3年次) 後期セメスター	単 位	2単位 30時間		
科目責任者	小倉敏裕	そ の 他			
担当教員	小倉敏裕 渡部晴之、林則夫、寺下貴美				
授業の概要	対象の健康状態を把握するために必要な医療画像の特徴、画像に基づき情報収集・解釈するために必要な基礎的知識を学習する。また、医療画像を作成するために必要な機器の特徴とそのメカニズム、危険性などを学習し、これを安全に取り扱うために必要な基礎的技術・態度を理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	この講義では日常の看護活動や、病院での検査業務など行う上で、知っておくべき医療現場にあるさまざまな医療画像装置および医療画像について学習する。また、先端画像処理装置を操作し、バーチャルリアリティ技術を用い、病気や解剖について学習する。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習(学習課題)	担当
	1	医療画像情報解析学の概説	講義	毎回、学習課題を提示	小倉
	2	さまざまな画像診断装置(取り扱い上の安全対策を含む)			
	3	CT検査			
	4	MRI検査、一般X線検査			小倉 林渡部
	5	内視鏡、X線を用いた検査			
	6	血管造影検査、消化管X線検査			小倉 寺下
	7	超音波、眼底、骨塩定量検査他			
	8	病院内の画像情報システム			
	9	バーチャルリアリティ技術を利用して人体の三次元画像を見る。コンピュータ内の人体データを透明度や色を変えて見る			
	10	CTデータを用いさまざまな人体断面を見る			
	11	バーチャル大腸内視鏡、バーチャル胃内視鏡			
	12	バーチャル気管支鏡			
	13	バーチャル血管内視鏡			
	14	バーチャルリアリティ技術を利用してさまざまな癌を学ぶ			
15	バーチャルリアリティ技術を利用してさまざまな解剖を学ぶ				
評価方法	出席状況70%、レポート30%				
教科書	特になし				
参考書 参考文献等	特になし				
備 考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門基礎科目 人間の発達と健康			聴講	可	
授業科目名	「人間の発達と健康」概論		科目履修	否	単位互換	否
科目番号	N02001	クラス番号	C1 (学部合同)			
授業形式	演習	必修選択区分	必修			
開講時期	1年 前・後期セメスター		単 位	2単位 60時間		
科目責任者	横山京子	そ の 他	RO1002 と前期共通			
担当教員	第1部：行田智子、横山京子、龍野浩寿、中西陽子、狩野太郎			第2部：松田安弘		
授業の概要	母胎期から老年期に至る人間の正常な発達過程と各時期の健全な発達を脅かす要因、各時期の人間に共通する正常から逸脱した健康状態とその回復過程を学習する。「発達」の概念を学習し、これを前提として人間の健全な発達過程とこれを脅かす要因をライフサイクルに沿って理解する。また、それぞれの時期に共通する正常から逸脱した健康状態を細胞レベルから日常生活レベルにいたる様々な段階から学習する。各論で展開される各発達段階における正常な健康状態と正常から逸脱した健康状態の理解の前提となる授業である。					
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：身体・心理・社会的存在としての人間とその一生を、発達と健康という視点から統合して学習し、看護学及び診療放射線学の対象理解を促進する。</p> <p>目標：1. 発達の概念および一般的原理、発達に影響する要因の学習を通して、人間のライフサイクルにおける正常な発達の重要性を認める。</p> <p>2. 発達理論の歴史的展開を学習することにより、人間発達観の変遷と発達理論の概要を理解する。</p> <p>3. 人間のライフサイクルの各時期における形態・機能的特徴を学習し、人間の形態・機能的側面の発達の法則性とメカニズムを理解する。</p> <p>4. 人間のライフサイクルの各時期における心理・社会的特徴を学習し、人間の心理・社会的側面の発達の法則性とメカニズムを理解する。</p> <p>5. 人間のライフサイクルの各時期における健全な発達を阻害する因子について学習し、健全な発達過程を送るために必要な身体的・心理的・社会的支援の重要性を理解する。</p> <p>6. 1から5を通して、人間を対象とする専門的職業における発達の理解の重要性を認める。</p> <p>7. 人間のライフサイクルの各時期に共通あるいは特有の機能障害のメカニズムを学習し、細胞レベルから日常生活レベルの健康状態を理解する。</p> <p>8. 人間のライフサイクルの各時期に共通する正常から逸脱した健康状態の回復過程とその特徴を理解する。</p>					
授業の内容と方法	＜第1部：人間のライフサイクルと発達＞授業内容		授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当	
1	「人間の発達」を学習する意義と重要性、発達の概念		講義 演習	教科書「看護のための人間発達学」精読 第1章 p.4-18	横山	
2	発達の一般原理、発達に影響する要因				横山	
3	母胎期にある人間の身体機能・形態の特徴、心理・社会的側面の発達とそのメカニズム、発達課題とその達成に向けた支援、胎児の発達及び胎児を取り巻く人々の発達に与える影響			第3章 p.62-78	行田	
4					行田	
5	乳幼児期にある人間の身体機能・形態の特徴、心理・社会的側面の発達とそのメカニズム、発達課題とその達成に向けた支援、エリクソンの自我発達理論、ピアジェの認知発達理論、ボウルビイの愛着の理論、ハヴィガーストの理論			第4章 p.82-114 第2章 p.30-33 p.35-40 p.40-43 p.49-54	横山	
6					横山	
7					横山	
8	学童期にある人間の身体機能・形態の特徴、心理・社会的側面の発達とそのメカニズム、発達課題とその達成に向けた支援			第5章 p.116-139	横山	
9	思春期・青年期にある人間の身体機能・形態の特徴、心理・社会的側面の発達とそのメカニズム、発達課題とその達成に向けた支援			第6章 p.142-169 第7章 p.172-197 第2章 p.33 p.53-55	龍野	
10					龍野	
11	成人期にある人間の身体機能・形態の特徴、心理・社会的側面の発達とそのメカニズム、発達課題とその達成に向けた支援、レビンソンの成人の発達理論			第8章 p.200-225 第2章 p.33-34 p.43-48 p.55	中西	
12					中西	
13	老年期にある人間の身体機能・形態の特徴、心理・社会的側面の発達とそのメカニズム、発達課題とその達成に向けた支援			第9章 p.228-265 第2章 p.34 p.56	狩野	
14					狩野	
15					狩野 / 横山	

	<第2部：各時期に共通する正常から逸脱した健康状態と回復過程> 授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1 循環機能障害とその回復過程 (1)	講義 演習	必要に応じて 学習課題を提 示	松田
	2 循環機能障害とその回復過程 (2)			
	3 循環機能障害とその回復過程 (3)			
	4 呼吸機能障害とその回復過程 (1)			
	5 呼吸機能障害とその回復過程 (2)			
	6 呼吸機能障害とその回復過程 (3)			
	7 消化・吸収機能障害とその回復過程 (1)			
	8 消化・吸収機能障害とその回復過程 (2)			
	9 消化・吸収機能障害とその回復過程 (3)			
	10 排泄機能障害とその回復過程 (1)			
	11 排泄機能障害とその回復過程 (2)			
	12 排泄機能障害とその回復過程 (3)			
	13 運動・感覚機能障害とその回復過程 (1)			
	14 運動・感覚機能障害とその回復過程 (2)			
	15 運動・感覚機能障害とその回復過程 (3)			
評価方法	第1部：課題レポート 30%、筆記試験 70% 第2部：筆記試験 100% 第1部と第2部の総合評価 ※15回の講義等の後に実施する試験日時は別途指定する			
教科書	第1部：舟島なをみ著 看護のための人間発達学第4版 医学書院			
参考書 参考文献等	・氏家幸子監修：母性看護学、廣川書店 ・山口規容子他訳：ヒトの成長と発達、メディカル・サイエンス・インターナショナル ・その他、講義中に必要に応じて適宜提示する			
備考	・課題図書「アドルフ・ポルトマン著、高木正孝訳：人間はどこまで動物か、岩波新書」 ・第1部終了時にレポート提出			

科目区分	専門教育科目 専門基礎科目 人間の生涯発達と健康			聴講	否
授業科目名	「人間の発達と健康」各論（導入実習）		科目履修	否	単位互換
科目番号	N02002	クラス番号	N1		
授業形式	実習	必修選択区分	必修		
開講時期	1年 後期セメスター	単 位	2単位 90時間		
科目責任者	狩野太郎	そ の 他			
担当教員	行田智子、松嶋弥生、橋爪由紀子、林はるみ、横山京子、益子直紀、富永明子、龍野浩寿、中野あずさ、垣上正裕、小西美里、中西陽子、廣瀬規代美、橋本晴美、浅見優子、狩野太郎、樋口友紀、福島昌子、清塚 遊、金谷文代				
授業の概要	産科外来、保育園、小学校、中学校、高等学校、成人健診施設、老人福祉センターなどをフィールドとして、参加観察を行う。様々な発達段階にある対象との相互行為を通して、生涯発達の各段階における良好な健康状態及びこの時期の人間に生じやすい健康上の問題の特徴を理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：母胎期・乳幼児期・学童期・思春期・青年期・成人期・老年期の各発達段階にある人々やそれを取り巻く環境との相互行為を通して、各段階における人間の良好な健康状態とその時期に生じやすい健康上の問題の特徴を理解する。</p> <p>目標：</p> <p>(1) 発達段階各期にある人々との相互行為を通して、発達段階各期における人間の発達の特徴と健康に影響する要因に関わる現象を観察する。</p> <p>(2) (1)において選択した現象から、発達段階各期にある人間の身体・心理・社会的側面の発達の特徴を明確にする。</p> <p>(3) (1)において選択した現象から、発達段階各期にある人間に生じやすい健康上の問題の特徴を明確にする。</p> <p>(4) 発達段階各期にある人間の身体・心理・社会的側面の発達の関連性を理解する。</p> <p>(5) 発達段階各期にある人間の発達及び健康状態の特徴と各期の連続性を理解する。</p> <p>(6) 看護学を「発達」と「健康」という視点から学習することの意義を認める。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	全体オリエンテーション	演習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習ガイドライン必読 ・人間の発達と健康概論<第1部>の内容の復習 ・各期の行動目標、フィールドの特徴に応じて、実習に必要な学習課題を提示する ・終了後統合レポート 	生涯発達看護学全教員
	2	母胎期、乳幼児・学童期、思春期・青年期、成人期、老年期における実習 (1)	実習		
	3	母胎期、乳幼児・学童期、思春期・青年期、成人期、老年期における実習 (2)	実習		
	4	母胎期、乳幼児・学童期、思春期・青年期、成人期、老年期における実習 (3)	実習		
	5	中間カンファレンス	演習		
	6	母胎期、乳幼児・学童期、思春期・青年期、成人期、老年期における実習 (4)	実習		
	7	母胎期、乳幼児・学童期、思春期・青年期、成人期、老年期における実習 (5)	実習		
	8	母胎期、乳幼児・学童期、思春期・青年期、成人期、老年期における実習 (6)	実習		
	9	母胎期、乳幼児・学童期、思春期・青年期、成人期、老年期における実習 (7)	実習		
10	統合カンファレンス・成果発表	演習			
	<p>【期間】平成30年2月13日（火）～平成30年2月23日（金）2週間</p> <p>【場所】前橋赤十字病院、伊勢崎市民病院、群馬中央病院、ふたば保育園、こども園もものき、群馬県立心臓血管センター、群馬県健康づくり財団、済生会前橋病院、前橋育英高等学校、共愛学園中学校・高等学校、前橋市立桂萱中学校、前橋市老人福祉センター、前橋市立小学校、吉岡町立小学校</p> <p>【教員】学生5名から6名の14グループを形成し、教員1名が担当する</p> <p>【内容・方法】各期にある対象者の生活場面に参加観察し、相互行為を展開する</p> <p>*原則として、実習期間内における出席日数が7日以上必要</p>				
評価方法	各期実習70%、カンファレンス参加状況15%、統合レポート15%				
教科書	指定なし				
参考書 参考文献等	舟島なをみ著：看護のための人間発達学 第4版 医学書院 人間の発達と健康概論<第1部>の配布資料、その他 別途提示する				
備 考	1月中に全体オリエンテーション予定、詳細は、実習要項参照				

科目区分	専門教育科目 専門基礎科目 人間の発達と健康			聴講	否	
授業科目名	「人間の発達と健康」各論Ⅰ（母胎期）		科目履修	否	単位互換	
科目番号	N02003	クラス番号	N1			
授業形式	演習	必修選択区分	必修			
開講時期	2年次 前期 Semester	単 位	1単位 30時間			
科目責任者	行田智子	そ の 他				
担当教員	行田智子、松嶋弥生、橋爪由紀子					
授業の概要	<p>母胎期とは、人間の生涯発達が始まる時期であると同時に生殖機能の成熟した人間が新たな生命を生成し、育み、その誕生を迎える時期である。しかし、実際は、妊娠・分娩・産褥に伴う心理・身体・社会的側面の急激な変化を体験し、様々な発達課題に直面、克服する時期でもある。これは、胎児の健全な発達が、胎児を取り巻く人々の発達に影響し、また、取り巻く人々の発達が胎児の発達に影響することを意味する。</p> <p>この授業においては、人間の発達及び健康状態に関する学習を前提に母胎期にある人間の正常な健康状態として、受胎から誕生までの仕組みと過程を学ぶ。また、この過程における正常な健康状態及び正常から逸脱した健康状態とその回復過程を理解する。同時に、この時期の人間を体内に宿し育む人間の正常な健康状態及び正常から逸脱した健康状態に焦点を当て、その回復過程を理解する。さらに、この時期の人間を取り巻く内的・外的環境に関して学習し、この時期の人間の健康問題が、その後の発達及び家族に及ぼす影響について理解する。</p>					
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：生命の再生産（リプロダクティブ）に関する内的・外的環境を学習し、この時期の人間の健康問題が、その後の発達及び家族・社会に及ぼす影響を学習する。</p> <p>目標：1. 母胎期に起こる対象の身体的変化について理解する。 2. 母胎期に起こる対象の心理・社会的変化について理解する。 3. 母胎期の対象の正常から逸脱した健康状態を理解する。 4. 母胎期の対象の健康に影響を及ぼす環境について理解する。 5. 母胎期の対象に関連する法律・社会制度を理解する。</p>					
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当	
	1	母胎期とは：定義、生命の育み（ライフサイクル含む）、家族サイクル	講義・演習	事前学習は教科書を精読、事後は資料を精読し、復習しておく。また、必要に応じて課題を提示する。	行田	
	2	リプロダクティブヘルス&ライツ：定義、性周期と生殖機能のメカニズム、ホルモンの働き、卵巣、子宮の変化				
	3	妊娠の成立、不妊、ヒトの発生と遺伝				
	4	妊娠の経過と健康状態①：妊娠期の身体的変化、妊娠期の心理的・社会的変化				
	5	妊娠の経過と健康状態②：胎児の成長と生理、胎盤・羊水の働き				
	6	妊娠の経過と健康状態③：妊娠期の主な検査、感染症				
	7	母胎期と環境：環境汚染、喫煙、アルコール				橋爪
	8	妊娠期の主な逸脱状態：流産・早産、妊娠高血圧症候群、合併妊娠、胎児発育遅延等				行田
	9	分娩の経過と健康状態①：分娩の3要素、分娩の機転				松嶋
	10	分娩の経過と健康状態②：分娩期の身体的変化、分娩期の心理的・社会的変化				松嶋
	11	分娩期の主な逸脱状態：回旋異常、遷延分娩、破水、出血、ショック				行田
	12	産褥の経過と健康状態：産褥期とは、退行性変化、進行性変化、不快症状、心理・社会的変化				松嶋
	13	産褥期の主な逸脱状態、新生児の経過と健康状態：新生児期とは、胎外生活の適応				橋爪
	14	新生児の経過と健康状態、主な逸脱状態				行田
15	母胎期をとりまく社会状況：母胎期と法律、母胎期と統計、母胎期と倫理					
評価方法	出席状況及び授業中の態度5%、ミニテスト及び講義終了後のテスト95%による総合評価					
教科書	系統看護学講座専門Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学① 医学書院 系統看護学講座専門Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② 医学書院 ウェルネスからみた母性看護過程 第3版 医学書院					
参考書	吉沢豊予子編集：女性生涯発達看護学 真興交易					
参考文献等	看護データブック 第5版 医学書院					
備考	特になし					

科目区分	専門教育科目 専門基礎科目 人間の発達と健康			聴講	否	
授業科目名	人間の発達と健康各論Ⅱ（乳幼児期・学童期）		科目履修	否	単位互換	否
科目番号	N02004	クラス番号	N1			
授業形式	演習	必修選択区分	必修			
開講時期	2年次 前期セメスター		単 位	1単位 30時間		
科目責任者	横山京子		そ の 他			
担当教員	横山京子 益子直紀 富永明子 生方尚絵					
授業の概要	乳幼児期・学童期は、精神・身体機能が急速に発達し、成熟していく時期であり、この時期の健全な発達は、人間の生涯発達に大きく影響する。また、精神・身体的機能が未成熟であるが故に様々な疾患に罹患し、事故などに遭遇しやすいなどの特徴を持つ。この授業においては、人間の発達及び健康状態に関する学習を前提に乳幼児期・学童期にある人間の正常な健康状態、正常から逸脱した健康状態とその回復過程を治療的側面を含め理解する。同時に、この時期の人間を取り巻く内的・外的環境を学習し、この時期の人間の健康問題が、その後の発達及び家族に及ぼす影響について理解する。					
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：乳幼児期・学童期にある人間を理解するために、人間の正常な健康状態、正常から逸脱した健康状態とその回復過程を治療的側面を含め学習する。また、この時期の人間を取り巻く内的・外的環境を学習し、この時期の人間の健康問題が、その後の発達および家族に及ぼす影響を理解する。</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児期・学童期の子どもと家族の発達と健康を支える法律、社会制度を理解する。 2. 乳幼児期・学童期の子どもの健康指標の意義および母子保健統計の動向を理解する。 3. 乳幼児期・学童期の子どもの健康生活に必要な基本的な生活習慣獲得の重要性を理解する。 4. 乳幼児期・学童期の子どもに生じやすい健康問題およびその要因と予防策を理解する。 5. 専門書を活用して乳幼児期・学童期の子どもの正常から逸脱した健康状態を理解する。 6. 乳幼児期・学童期の子どもの正常から逸脱した健康状態に適用される医療の概要を理解する。 7. 乳幼児期・学童期の子どもの健康問題がその後の発達および家族に及ぼす影響を理解する。 					
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当	
	1	子どもの発達と健康を支える法律と制度 ：ヘルスプロモーション・子どもの権利・児童福祉法など	講義	課題提示	横山	
	2	子どもの看護における概念と理論 ：自我発達・認知発達・愛着の発達・親子関係	講義	*	富永	
	3	子どもの発達段階に応じた日常生活援助① ：動く・眠る	講義	*	横山	
	4	子どもの発達段階に応じた日常生活援助② ：食べる	講義	*	横山	
	5	子どもの生活を支える成長と機能の発達① ：ヘルスアセスメント・子どものバイタルサイン	講義	*ワークシート配布	益子	
	6	子どもの生活を支える成長と機能の発達② ：身体計測	演習	*ワークシート提出	横山 益子	
	7	子どもの生活を支える成長と機能の発達③ ：バイタルサイン測定	演習	*ワークシート提出	富永 生方	
	8	子どもに見られる主な症状① ：発熱・脱水	講義	*	益子	
	9	子どもに見られる主な症状② ：下痢・便秘	講義	*課題提出	富永	
	10	子どもに生じやすい健康問題と予防① ：不慮の事故・う歯・肥満等	講義	*	益子	
	11	子どもに生じやすい健康問題と予防② ：小児感染症・予防接種	講義	*	横山	
	12	子どもの逸脱した健康状態とその回復過程と治療① ：課題学習の実際	演習	各器官・機構の形態機能とその発達について (別途、学習課題を提示する)	横山	
	13	子どもの逸脱した健康状態とその回復過程と治療② ：内分泌・悪性疾患	演習・講義		益子	
	14	子どもの逸脱した健康状態とその回復過程と治療③ ：循環器疾患・消化管疾患	演習・講義		横山	
15	子どもの逸脱した健康状態とその回復過程と治療④ ：骨・運動器疾患	演習・講義	横山			
評価方法	課題 20% 筆記試験 80%					
教科書	新体系 看護学全書 小児看護学①小児看護学概論 小児保健 メヂカルフレンド社 新体系 看護学全書 小児看護学②健康障害をもつ小児の看護 メヂカルフレンド社					
参考書 参考文献等	舟島なをみ：看護のための人間発達学第4版 医学書院 浦島充佳：病態整理できた小児科学 医学教育出版社 氏家幸子：小児看護学 廣川出版 五十嵐隆編集：小児科学 改訂第9版 文光堂					
備考	*：テキスト該当箇所の予習と復習					

科目区分	専門教育科目 専門基礎科目 人間の発達と健康			聴講	否	
授業科目名	「人間の発達と健康」各論Ⅲ (思春期・青年期)		科目履修	否	単位互換	否
科目番号	N02005	クラス番号	N1			
授業形式	演習	必修選択区分	必修			
開講時期	2年次 前期 Semester		単 位	1単位 30時間		
科目責任者	龍野浩寿	そ の 他				
担当教員	龍野浩寿、垣上正裕、中野あずさ、松田安弘					
授業の概要	<p>思春期・青年期は、子どもから大人への過渡期であり、身体機能が最大限に成熟する一方で、精神的構造の変化が著しく、それまで意識しなかった「自己」に関心をもち、同一性の獲得が課題となる。そのため、この時期は、特に精神的側面に関しての健康上の問題が生じやすい。また、近年、思春期・青年期にある人間の反社会的行動や、学習環境への適応不全、性感染症への罹患などの問題が多発しており、看護学的視点からこれらの問題の解決・回避にアプローチしていく必要が生じている。</p> <p>この授業においては、人間の発達及び健康状態に関する学習を前提に思春期・青年期にある人間の正常な健康状態及び正常から逸脱した健康状態とその回復過程を含め理解する。同時に、この時期の人間を取りまく内的・外的環境に関して学習し、この時期の人間の健康問題が、その後の発達及び家族に及ぼす影響について理解する。</p>					
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：思春期・青年期にある対象の正常な健康状態および正常から逸脱した健康状態とその回復過程を学習する。 また、対象を取りまく家族、地域、社会との関係について学習する。</p> <p>目標：1. 思春期・青年期にある対象の健康状態を理解する。 2. 思春期・青年期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解する。 3. 思春期・青年期にある対象に生じやすい健康問題を理解する。 4. 思春期・青年期にある対象の健康問題からの回復過程を理解する。 5. 思春期・青年期にある対象を取りまく家族、地域、社会への影響について理解する。 6. 思春期・青年期の健康問題への支援について理解する。</p>					
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当	
	1	思春期・青年期の成長発達①：思春期・青年期の特徴	講義・演習	事前学習 「人間の発達と健康概論」の思春期・青年期に該当する授業内容の復習。 事後学習 授業内容を復習するとともに、授業中に紹介する当事者の体験を綴った書籍を読む。	龍野	
	2	思春期・青年期の健康問題①：感染症・性感染症 (STD)、マイコプラズマ感染症			松田	
	3	思春期・青年期の健康問題②：運動器の障害・脊髄損傷			松田	
	4	思春期・青年期の成長発達②：思春期・青年期までのこのころの発達			龍野	
	5	思春期・青年期の健康問題③：思春期・青年期に生じやすいこのころの健康問題と動向			垣上	
	6	思春期・青年期の健康問題④：思春期・青年期のこのころの健康問題に対する治療			龍野	
	7	思春期・青年期の健康問題⑤：いじめ・不登校・ひきこもり			垣上	
	8	思春期・青年期の健康問題⑥：統合失調症 (1)			中野	
	9	思春期・青年期の健康問題⑦：統合失調症 (2)			中野	
	10	思春期・青年期の健康問題⑧：気分障害			垣上	
	11	思春期・青年期の健康問題⑨：発達障害 - 広汎性発達障害			中野	
	12	思春期・青年期の健康問題⑩：発達障害 - 学習障害 (LD)、注意欠陥多動性障害 (ADHD)			中野	
	13	思春期・青年期の健康問題⑪：不安性障害、強迫性障害			垣上	
	14	思春期・青年期の健康問題⑫：パーソナリティ障害、摂食障害			垣上	
	15	思春期・青年期の健康問題⑬：思春期・青年期の健康問題への支援の実際			龍野	
評価方法	出席状況 (10%)、講義終了後のテスト (90%) による総合評価					
教科書	武井麻子他：系統看護学講座専門分野Ⅱ 精神看護学の基礎 精神看護学 [1], 医学書院, 2013					
参 考 書 参 考 文 献 等	<p>服部祥子：生涯人間発達論第2版, 医学書院, 2010 出口禎子編：情緒発達と看護の基本 ナーシング・グラフィカ 32 メディカ出版, 2013 宮田雄吾：14歳からの精神医学 - 心の病気ってなんだろう, 日本評論社, 2011 山崎透：児童精神科の入院治療 - 抱えること、育てること, 金剛出版, 2010 清水将之：子どもの精神医学ハンドブック第2版, 日本評論社, 2012 舟島なをみ：看護のための人間発達学第4版, 医学書院, 2011</p>					
備 考	特になし					

科目区分	専門教育科目 専門基礎科目 人間の発達と健康			聴講	否	
授業科目名	「人間の発達と健康」各論Ⅳ（成人期）		科目履修	否	単位互換	否
科目番号	N02006	クラス番号	N1			
授業形式	演習	必修選択区分	必修			
開講時期	2年次 前期セメスター	単 位	1単位 30時間			
科目責任者	廣瀬規代美	そ の 他				
担当教員	廣瀬規代美、中西陽子、松田安弘、浅見優子					
授業の概要	<p>成人期は、人間が心理・身体・社会的な成熟に至る時期である一方、様々な生活上の変化によりストレスが高く、ストレスに関連した健康上の問題が生じやすい時期である。また加齢に伴い、生理学的な変化が起こるとともに、役割の変化やそれに伴う喪失を体験する時期である。</p> <p>この授業においては、人間の発達及び健康状態に関する学習を前提に成人期にある人間の正常な健康状態及び正常から逸脱した健康状態とその回復過程を含め理解する。同時に、この時期の人間を取り巻く内的・外的環境に関して学習し、この時期の人間の健康問題が、その後の発達及び家族に及ぼす影響について理解する。</p>					
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：成人期にある人間を取り巻く内的・外的環境等を学習し、この時期の人間の健康問題がその後の発達に及ぼす影響について理解する。また、この時期にある人間の正常な健康状態及び正常から逸脱した健康状態とその回復過程を理解する。</p> <p>目標：1. 成人期に特徴的な生活習慣病の代表的な三大疾病の病態生理とその罹患による機能障害、主な症状を理解する。 2. 1の回復過程を促進するための検査・治療の概要を理解する。 3. 1の罹患に伴い生じる健康問題とそれによる発達への影響を理解する。 4. 更年期と関連する健康障害と予防・治療の概要を理解する。 5. 健康状態の急激な変化に伴う問題とその影響を理解する。 6. 成人期にある対象家族のストレスと健康障害の関連を理解する。</p>					
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当	
	1	逸脱した健康状態とその回復過程①：内分泌・代謝疾患（糖尿病）の病態生理、正常な機能と罹患に伴う機能障害	講 義 演 習	講義と並行して、成人期に代表的な機能障害（講義で取り上げない疾患も含める）について、各自関連文獻を活用し、学習内容を整理する。 ファイルを作成し提出する。 <機能障害> 1.呼吸機能障害 2.循環機能障害 3.消化吸収・肝・膵機能障害 4.糖代謝機能障害 5.排泄・性生殖機能障害 6.血液造血器・自己免疫機能障害	廣瀬	
	2	逸脱した健康状態とその回復過程②：内分泌・代謝疾患の罹患に伴う主な症状・検査・治療の概要			廣瀬	
	3	逸脱した健康状態とその回復過程③：内分泌・代謝疾患により生じる健康問題とそれによる発達への影響			廣瀬	
	4	逸脱した健康状態とその回復過程④：動脈硬化性疾患の病態生理、正常な機能と罹患に伴う機能障害			松田	
	5	逸脱した健康状態とその回復過程⑤：動脈硬化性疾患の罹患に伴う主な症状・検査・治療の概要			松田	
	6	逸脱した健康状態とその回復過程⑥：動脈硬化性疾患により生じる健康問題とそれによる発達への影響			松田	
	7	逸脱した健康状態とその回復過程⑦：自己免疫疾患（SLE）の病態生理と主な症状・検査・治療、健康問題とそれによる発達への影響			浅見	
	8	逸脱した健康状態とその回復過程⑧：悪性新生物の病態生理と機能障害			中西	
	9	逸脱した健康状態とその回復過程⑨：悪性新生物の罹患に伴う主な症状・検査・治療の概要			中西	
	10	逸脱した健康状態とその回復過程⑩：悪性新生物により生じる健康問題とそれによる発達への影響			中西	
	11	逸脱した健康状態とその回復過程⑪：更年期障害とその原因・予防・治療、健康問題と発達への影響			廣瀬	
	12	逸脱した健康状態とその回復過程⑫：血液・造血器疾患（白血病）の病態生理、正常な機能と罹患に伴う機能障害、主な症状			廣瀬	
	13	逸脱した健康状態とその回復過程⑬：血液・造血器疾患の罹患に伴う検査・治療の概要、健康問題とそれによる発達への影響			廣瀬	
	14	逸脱した健康状態とその回復過程⑭：健康状態の急激な変化に伴う問題と対象・家族への影響			廣瀬	
15	逸脱した健康状態とその回復過程⑮：健康状態の急激な変化に伴う問題とその特徴、予防・治療の概要	廣瀬				
評価方法	出席状況10%、講義終了後の試験90%により総合的に評価する。					
教科書	指定なし／講義にて別途資料を配布する。					
参考書 参考文献等	安酸史子他：ナーシング・グラフィカ 成人看護学概論，メディカ出版，2015 系統看護学講座：成人看護学〔2〕呼吸器，〔3〕循環器，〔4〕血液・造血器，〔5〕消化器，〔6〕内分泌・代謝，〔8〕腎・泌尿器，〔9〕女性生殖器，〔11〕アレルギー・膠原病・感染症，医学書院 等。その他講義にて別途提示する。					
備 考	学習課題ファイルは、3年次の生涯発達看護学各論Ⅳ・生涯発達看護学各論Ⅵ（実習）においても活用する。					

科目区分	専門教育科目 専門基礎科目 人間の発達と健康			聴講	否	
授業科目名	「人間の発達と健康」各論V (老年期)		科目履修	否	単位互換	
科目番号	N02007	クラス番号	N1			
授業形式	演習	必修選択区分	必修			
開講時期	2年次 前期セメスター	単 位	1単位 30時間			
科目責任者	狩野太郎	そ の 他				
担当教員	狩野太郎、松田安弘、垣上正裕、樋口友紀、福島昌子					
授業の概要	<p>老年期は、加齢現象に伴い身体的形態の変化、機能の低下を起こす時期である。また、様々な役割の移行や喪失を体験し、新しい役割や活動への再方向づけの時期である一方、自分の人生を受容し、死に対する考え方を発達させる時期でもある。</p> <p>この授業では、人間の発達及び健康状態に関する学習を前提に老年期にある人間の正常な健康状態及び正常から逸脱した健康状態を生活機能の視点からその回復過程を含め理解する。同時に、この時期の人間を取り巻く内的・外的環境について学習し、この時期の人間の健康問題が、その後の発達及び家族に及ぼす影響について理解する。</p>					
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：老年期にある人をエイジングによる生涯発達の過程を進む人として理解し、この過程で変化する身体・精神・社会機能の特徴とその生活への影響を学び、老年期にある対象の理解を深める。</p> <p>目標 1. エイジングと老化の理論に基づいて老年期の特徴を理解する。 2. 老年期にある対象の老化に伴う身体的・精神的・社会的特徴を理解する。 3. 生活機能（ICF）の視点から老年期にある対象を包括的に理解する。 4. 老年期の対象に起こりやすい健康障害を理解する。 5. 老年期の対象の機能を統合して評価する必要性を理解する。 6. 老年期の対象に関する倫理的課題を理解する。</p>					
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習(学習課題)	担当	
	1	老化と老年期の対象理解の視点：エイジング (aging) のとらえ方・老化の理論と老年期の特徴、ICF	講義・演習	老化に関する課題	狩野	
	2	老年期の人をとりまく社会：人口の高齢化と家族形態の変化、老年期の人の社会状況		高齢社会の現状に関する課題	福島	
	3	加齢による精神機能の変化と生活への影響：コミュニケーション能力、認知能力の変化		高齢者の認知機能に関する課題	垣上	
	4	加齢による身体機能の変化1)：呼吸、脈拍、血圧、体温、呼吸・循環の障害		加齢に伴う身体的変化(呼吸・循環・感覚・排泄機能)の特徴		松田
	5	加齢による身体機能の変化2)：防衛力の障害：感覚・知覚、免疫				松田
	6	加齢による身体機能の変化3)：代謝・排泄				松田
	7	加齢による身体機能の変化4)：口腔機能と口腔衛生、食事と栄養、睡眠パターンの変化		食事・栄養に関する課題	樋口	
	8	加齢による身体機能の変化5)：柔軟性、バランス保持、瞬発力・俊敏性の低下、パーキンソン症状		運動機能に関する課題	狩野	
	9	加齢による身体機能の変化6)：骨・筋・関節の変化(骨粗鬆症、円背、筋肉の減少、関節痛、関節リウマチ)		筋・骨・関節機能の課題	狩野	
	10	加齢による身体機能の変化7)：皮膚・爪の変化とケア(乾燥、スキントラブル、感染症、スキンケア、フットケア)		爪と皮膚のケアに関する課題	狩野	
	11	加齢による社会機能の変化と生活への影響：就労、社会活動、役割、生きがい、介護		就労や社会的役割の課題	狩野	
	12	老年期における生活環境：経済生活、住環境、文化、交通事故、事件、災害被害		住環境や交通事故の課題	狩野	
	13	老年期における日常生活の安全維持：転倒の特徴と予防対策、熱中症、脱水症の症状と予防対策		熱中症に関する課題	狩野	
	14	老年期におけるケアシステム：高齢者関連施設と社会制度		高齢者施設に関する課題	狩野	
15	老年期の人の倫理的課題：自己決定尊重とエイジング、高齢者虐待、身体拘束	倫理に関する課題		狩野		
評価方法	講義終了後のテスト(100%)					
教科書	系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門21 老年看護 病態・疾患 医学書院					
参考書 参考文献等	特になし					
備考	特になし					

科目区分	専門教育科目 専門基礎科目 人間の発達と健康			聴講	否
授業科目名	「人間の発達と健康」各論VI (終末期)		科目履修	否	単位互換
科目番号	N02008	クラス番号	N1		
授業形式	演習	必修選択区分	必修		
開講時期	2年次 後期 Semester	単 位	1単位 30時間		
科目責任者	中西陽子	そ の 他			
担当教員	中西陽子、廣瀬規代美、行田智子、横山京子、龍野浩寿、京田亜由美、猿木信裕				
授業の概要	一般的に終末期とは、人間の生涯発達の終焉を指すが、人間は、それぞれの発達段階において終末期を迎える可能性がある。この授業においては、人間の発達及び健康状態に関する学習を前提に各発達期にある人間の終末期の状態について理解する。同時にこの時期の人間を取り巻く内的・外的環境に関して学習し、人生の終焉を迎える人間に関する尊厳及びその死が家族に及ぼす影響について理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	目的：終末期にある対象を理解し、人生の終焉を迎える人間の尊厳について学習する。 目標： 1. 人間の死の概念について理解する。 2. 各発達段階にある終末期の人々の身体・心理・社会的な特徴を説明する。 3. 終末期にある対象及び死を迎えた対象の家族の心理について理解する。 4. 終末期における人間の尊厳について思考する。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	人間の生涯発達における終末期：総論「終末期とは」「死の概念」、「日本人の死の捉え方と宗教」	講義 ・演習	必要に応じて学習課題を提示	中西
	2	死の定義：脳死と臓器移植 臓器移植医療における看取り			中西
	3	人間の発達段階と死1)：母胎期「流産・死産と母親の心理」			行田
	4	人間の発達段階と死2)：乳幼児期・学童期「子どもの死と家族への影響」			横山
	5	人間の発達段階と死3)：思春期・青年期「思春期・青年期の自殺とその要因」「死と向き合う思春期・青年期の人々の心理」			龍野
	6	人間の発達段階と死4)：成人期「成人の死と家族及び周囲の人々への影響」			中西
	7	人間の発達段階と死5)：老年期「高齢者の死(生の全うと死)」			廣瀬
	8	終末期の対象の理解1)：「終末期の身体的特徴と援助」			中西
	9	終末期の対象の理解2)：「終末期にある対象の心理・社会的特徴と援助」			中西
	10	終末期の対象の理解3)：「終末期にある対象の霊的特徴と援助(スピリチュアルペインとスピリチュアルケア)」			中西
	11	終末期の対象の理解4)：緩和ケア「緩和医療と緩和ケア①概念と看護」			廣瀬
	12	終末期の対象の理解5)：緩和ケア「緩和医療と緩和ケア②痛みの緩和」			猿木
	13	終末期の対象の理解6)：終末期患者の社会的支援			廣瀬
	14	終末期の対象の理解7)：在宅ターミナルケア			京田
15	終末期の対象の理解8)：終末期にある患者の家族及び遺族の心理	中西			
評 価 方 法	課題レポート：70%、出席状況：30%				
教 科 書	系統看護学講座 別巻 緩和ケア 第2版 「医学書院」 2015年				
参 考 書 参 考 文 献 等	参考書と参考文献は講義中に必要に応じて適宜示すようにする。				
備 考	客観テストは実施しないため、講義への出席状況を重視する。				

科目区分	専門教育科目 専門基礎科目 専門職的態度の基盤			聴講	否
授業科目名	相互行為展開論		科目履修	否	単位互換
科目番号	N03001	クラス番号	C1(学部合同)		
授業形式	演習	必修選択区分	必修		
開講時期	1年次 後期 Semester	単 位	1単位 30時間		
科目責任者	木村真依子	そ の 他	R03001と同科目		
担当教員	木村真依子				
授業の概要	<p>他者を尊重した円滑な相互行為とそのためコミュニケーション能力は、保健医療専門職が、対象と信頼関係を築き質の高い実践を提供するために必要不可欠である。</p> <p>この授業においては、コミュニケーションに関する基本的知識、技術を学習し、ロールプレイングなどの模擬演習を実施し、他者を尊重した円滑な相互行為を展開するための方法・態度を理解する。</p>				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：保健医療専門職として、尊重した円滑な相互行為を展開するための方法・態度を学習する。</p> <p>目標：1. コミュニケーションに関する基本的知識と技術を理解する。 2. 自己理解、他者理解を深めることができる。 3. 他者との間でスムーズなコミュニケーションを図ることができる。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	コミュニケーション概論 講義：コミュニケーションの基礎学習	講義・演習	授業毎に振り返りレポートを提出	木村
	2	演習：グループワーク			
	3	自己を知る・自己理解 講義：自己認知の学習			
	4	演習：グループワーク			
	5	他者を知る・他者理解 講義：認知思考過程の学習			
	6	演習：グループワーク			
	7	体の声を聴く・ストレスケア 講義：身体症状・セルフケアの学習			
	8	演習：グループワーク			
	9	ことばを聴くこと・話すこと 講義：基本的なスキルの学習			
	10	演習：ロールプレイング			
	11	アサーション・トレーニングⅠ 講義：アサーション・スキルの学習			
	12	演習：ロールプレイング			
	13	アサーション・トレーニングⅡ 講義：アサーション・スキルの学習			
	14	演習：ロールプレイング			
15	コミュニケーション総論 講義：本講義の総復習				
評価方法	演習への積極的参加（50％）、レポート（20％）、試験（30％）による総合評価。				
教科書	指定なし。 授業毎に資料を配布する。				
参考書 参考文献等	平木典子：図解 相手の気持ちをきちんと<聞く>技術 PHP 研究所 平木典子：図解 自分の気持ちをきちんと<伝える>技術 PHP 研究所				
備考	2コマ続きで行う。				

科目区分	専門教育科目 専門基礎科目 専門職的態度の基盤			聴講	可
授業科目名	生命倫理学	科目履修	可	単位互換	否
科目番号	N03002	クラス番号	C1 (学部合同)		
授業形式	講義	必修選択区分	必修		
開講時期	1年次 後期 Semester	単 位	1単位 15時間		
科目責任者	森川 功	そ の 他	R03002と同科目		
担当教員	森川 功				
授業の概要	<p>生命倫理学 (バイオエシックス) とは、法学、宗教学、社会学をはじめ生命科学・医療・保健の分野において人間の在り方を倫理的・道徳的観点から系統的に論ずる学問であり、広義には、地球上の動植物、自然環境の関わりもその対象となる。</p> <p>この授業においては、生命倫理学の発展の経緯と特徴を明らかにしながら、人類社会における倫理学の重要性が生命倫理を産み出した経緯を学習する。また、生命医科学技術の進歩とバイオエシックス、地球環境とバイオエシックスの問題を学習し、人間社会の発展とこれに伴う倫理道徳的課題の複雑化・多様化について理解する。この過程を通し、様々な価値基準と情報が氾濫する中、自ら倫理的意思決定を行うことの重要性を理解する。</p>				
学 科 目 的 学 科 目 標	生命倫理の基本原則、人の存在価値に関する概念的対立について学び、それらに照らして、具体的な事案の諸事実のいずれに倫理問題が存在するのかを自分で見出し、その事案の倫理的是非について自己の主張を論理的に展開することができるようになること。				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	生命倫理の基本原則、SOL と QOL	講義	毎回、学習課題を提示	森川
	2	具体的な事案の提示と解説 (1)			
	3	具体的な事案の提示と解説 (2)			
	4	具体的な事案の提示と解説 (3)			
	5	具体的な事案の提示と解説 (4)			
	6	具体的な事案の提示と解説 (5)			
	7	具体的な事案の提示と解説 (6)			
	8	総括			
評価方法	レポート(100%) + 講義における質疑応答				
教科書	使用しない。プリントを配布する。				
参考書 参考文献等	森川 功『生命倫理の基本原則とインフォームド・コンセント』(2002年、じほう) 木村利人『自分のいのちは自分で決める』(2000年、集英社)				
備 考	聴講および科目履修は「倫理と道徳」(科目番号 A02004) の既習を前提とする。				

科目区分	専門教育科目 専門基礎科目 専門職的態度の基盤			聴講	可
授業科目名	社会制度と福祉	科目履修	可	単位互換	可
科目番号	N03003	クラス番号	C1		
授業形式	講義	必修選択区分	必修		
開講時期	2年次 前期 Semester	単 位	2単位 30時間		
科目責任者	中越信一	そ の 他	R03003と同科目		
担当教員	中越信一、高木悦子				
授業の概要	社会福祉とは、国民の生存権を保障するため、貧困者や社会的障害を持つ人々に対する援護・育成・厚生を図ろうとする公私の社会的努力を組織的に行なうことである。この授業においては、生涯を通じて健康や障害の状態に応じた人々の生活を支える制度として社会福祉が何故必要不可欠であり、現代の日本社会においてどのように機能しているか学習する。また、この過程を通して、社会福祉と政策との関連、関係法規について理解する。				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：社会資源・財源の効率化のみならずノーマライゼーションやリハビリテーションの面から医療・保健・福祉の連携による疾病・介護予防、早期治療、早期回復が目指されている。そのために治療後の個々の生活障害に応じて個別的に生活を支える社会福祉の基本的な態度や援助方法を学ぶ。</p> <p>目標：1. 社会福祉の理念と仕組みを理解する。 2. 社会福祉の基本的な援助方法（技術）を理解する。 3. 対象者別、領域別の社会福祉及び社会保障を理解する。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	社会制度とは何かー概念、理念・目的	講義	事後学習：講義のテーマに関する振り返りレポートの提出。	中越
	2	社会制度の歴史Ⅰー欧米			
	3	社会制度の歴史Ⅱー日本			
	4	社会福祉の法制			
	5	社会福祉の行財政			
	6	社会福祉の実施体制			
	7	社会福祉の援助技術（1）	演習		高木
	8	社会福祉の援助技術（2）			
	9	社会福祉の各論①ー高齢者福祉	講義		
	10	社会福祉の各論②ー児童家庭福祉			
	11	社会福祉の各論③ー障害者福祉			
	12	社会保障の各論①ー所得保障と年金制度			
	13	社会保障の各論②ー健康保険と医療保障制度			
	14	社会保障の各論③ー公的扶助と生活保護制度			
15	社会保障の各論④ー介護保障と介護保険制度				
評価方法	筆記試験 70%、レポート 20%、出席状況 10%				
教科書	指定なし				
参考文献等	<p>国民の福祉と介護の動向 最新版：(財)厚生統計協会 国民衛生の動向 最新版：(財)厚生統計協会 保険と年金の動向 最新版：(財)厚生統計協会 ナーシング・グラフィカ⑨「社会制度と社会保障」：MCメディカ出版 厚生労働白書 最新版：厚生労働省</p>				
備考	特になし				

科目区分	専門教育科目 専門基礎科目 専門職的態度の基盤			聴講	否
授業科目名	生活と研究		科目履修	否	単位互換
科目番号	N03004	クラス番号	N1		
授業形式	演習		必修選択区分	必修	
開講時期	2年次 前期 Semester		単 位	1単位 30時間	
科目責任者	高井ゆかり		そ の 他		
担当教員	高井ゆかり、石川良樹、森川功、鶴生川恵美子、松田安弘、肥後すみ子、行田智子、中西陽子、狩野太郎、宮崎有紀子、齋藤基、山下暢子				
授業の概要	<p>学生が日頃感じている身近な問題を解決するために、研究成果の活用を試みる。学生は、自己の関心興味に従って、10人1グループを形成する。各グループを1名の教員が担当し、発見学習型の演習を行う。学生は、日頃感じている様々な問題をテーマとして焦点化し、関連する研究文献を検索、選択、収集する。また、収集した文献を選別し、精読・理解・活用し、グループ討議を行いながら問題の解決を試みる。この過程を通して、自らの問題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、問題解決に向けて研究成果を活用する意義、自分たちの生活と研究との関わりを理解する。</p>				
学 科 目 的 学 科 目 標	<p>目的：日頃感じている身近な疑問や問題を解決する過程を通して、主体的学習と研究的態度の重要性を理解する。</p> <p>目標：1. 問題解決の一方法として、文献検索の目的、方法を理解する。 2. 日頃感じている身近な疑問や問題を焦点化し、問題解決過程を実施する。 3. グループ討議を通して他者の意見を尊重するとともに自分の役割を果たす。 4. 問題解決に向けて研究成果活用の意義を見いだす。 5. 自ら問題を主体的に解決する意義を見いだす。 6. 問題解決の過程を通して、人間の生活と研究の関わりを理解する。</p>				
授業の内容と方法	回	授業内容	授業形態	事前・事後学習 (学習課題)	担当
	1	オリエンテーション、問題の解決過程（講義）	講義 演習	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ毎に次回までの課題を明確にし、それに取り組む。 ・入手した文献を精読し、内容を整理する。 	高井
	2	文献の検索・精読（講義）			
	3	問題の明確化・焦点化①（GW）			
	4	問題の明確化・焦点化②（GW）			
	5	文献の検索・精読・要約①（GW）			
	6	文献の検索・精読・要約②（GW）			
	7	文献の検索・精読・要約③（GW）			
	8	文献の検索・精読・要約④（GW）			
	9	文献の検索・精読・要約⑤（GW）			
	10	文献の要約に基づく疑問や問題の解決①（GW）			
	11	文献の要約に基づく疑問や問題の解決②（GW）			
	12	文献の要約に基づく疑問や問題の解決③（GW）			
	13	文献の要約に基づく疑問や問題の解決④（GW）			
	14	成果発表①			
15	成果発表②				
評価方法	授業への参加状況、成果発表、提出レポートに基づき、行動目標の達成状況を判断する。（100%） なお、行動目標は初回オリエンテーション時に提示する。				
教科書	特になし				
参考文献等	井上幸子他編：看護学大系 10 看護における研究，日本看護協会出版会。				
備考	特になし				